

令和2年度区長と区民の対話会 要 旨

1 日時 令和2年12月7日（月）13：30～15：35

2 場所 稲毛保健福祉センター 3階 大会議室

3 参加者 令和2年度稲毛区地域活性化支援事業 支援団体5団体
稲毛区長、副区長、地域振興課地域づくり支援室長
事務局として、地域振興課地域づくり支援室職員2名

4 当日の進行

13：30～14：35 令和2年度補助金交付団体による中間報告会

14：35～14：45 休憩

14：45～15：35 区長と区民の対話会

「ウィズコロナの地域活動について」

5 要旨

はじめに、事務局より本日の流れと中間報告の手順、感染症対策等について説明を行った。

(1) 中間報告会

令和2年度稲毛区地域活性化支援事業 支援団体5団体による報告後、質疑応答を行った。

(2) 区長と区民の対話会「ウィズコロナの地域活動について」

①進行は稲毛区長が行い、初めに改めて参加者の自己紹介を行った。

②その後、下記3つの小テーマに沿って、意見交換を行った。主な発言は以下のとおり。

【テーマ1】「各団体が受けた影響と活動継続のため工夫した事例等」について

(参加者)

拠点における交流を生み出すための仕掛けである、イベントが開催できないことが大きな影響であった。また、これまで大学や地域と連携してイベントを行うことが基本だったが、大学自体がオンライン授業になるなどして、連携が取りづらくなった。現在は、拠点において情報交流を行ったり、物を配布したり、オンライン交流を行う

など、工夫してコミュニケーションを維持している状況。

(参加者)

これまでと同じように場を提供していくにあたり、どのようにリスクを下げるか、ガイドラインを定めるのに大変苦労した。それでもなお、人数の削減や飲食の禁止など、運営に大きな制約がかかっている。

一方で、「おうち時間」が増えたことでボランティアの参加に興味を示す人が増えたり、こういった場所を存続してほしいと、利用する子供やその親から希望を受けるなどの変化があった。場所としての必要性は一層高まっていると感じている。

(参加者)

予定していた事業は、相手方となる多くの団体が活動停滞している現状で、進めていくことが難しくなってしまった。

しかしながら、自分たちの団体は中間支援組織であることから、活動ができない現状を共有することにも意義があると考え直し、このようなアンケートを取ったり、取材活動をオンラインで継続したりしている。

(参加者)

大学の授業がオンラインとなったことの影響が大きく、思うように活動できない状況があった。

(参加者)

前期の事業はほぼ見送りになり、参加希望であった子どもを受け入れできなくなるなど影響は非常に大きかった。良かった点としては、中止や今後の予定など、保護者とは全てメールや SNS でつながっていたので、意思疎通がスムーズであったこと。また、「1時間でもやってほしい」というような保護者からのご要望も多く、引き続きできることをやっていきたいと思っている。

【テーマ2】「実践方法を変更したことで感じたメリット・デメリット」について

(参加者)

これまでは拠点における対面の交流にこだわってきたけれど、オンラインや今回のような方法でも交流は図れると、その可能性に気づいた点がメリット。一方で、情報発信や配布など、どうしても一方的なコミュニケーションになりがちであり、地域の方と意見を交わす機会があまり作れていない。双方向的なコミュニケーションの方法

を検討したい。

(参加者)

本来、自分たちは地域との関わりに興味を持ちゼミを選択しているので、そういった機会が全く持てなかったデメリットがあったものの、その分、交流を図れる機会があったときにその喜びは大きかった。今後積極的に地域と関わっていきたいと考えている。

(参加者)

活動を長く続けている団体はこれまでのノウハウがあり、ある意味で独立していた。情報共有といっても、自分たちの取り組みを知ってもらいたいという一方向的なものであった部分があったかもしれない。それが今回期せずして、各団体の活動がうまく回らなくなったことで、「ほかの団体はどうしているだろう」と自分たち以外にも目が向くようになった。本当の意味での双方向的な関係性構築の、ひとつの弾みになるのではないかと少し前向きに考えている。

【テーマ3】「今後、新しい生活様式を活用し、地域活動の活性化を図るためにやってみたいこと・必要なこと」について

(参加者)

オンラインの講演企画を予定しており、動画にしてYouTubeで展開したいと考えている。また、地域の声聞き取るための方法として「地域の掲示板」を拠点に設置するなどのアイデアがある。

(参加者)

ボランティアについて興味を示す声が高まるなどの思いがけない機運がある。地域の方との連携をより強め、地域におけるサブスクールの役割なども考えていきたい。

(参加者)

活動ができなくなったこと、停滞したことは事実。しかしそれにより、こういった活動が必要という意識が、活動を行う我々当事者も、支援を必要とする方々もより強くなったような気がしている。そのような中で、中間支援組織として本当に必要とされる活動は何か、今一度考えていきたい。

(参加者)

やはりリモートで行う事業について検討をしていきたい。一つの選択肢・
ツールとしてうまく活用し、より事業の充実につなげていきたい。

(区長)

様々なご意見に感謝する。今後もポジティブな気持ちを捨てず、皆様と協力しながら
地域づくりを推進したいと考えているので、ぜひ引き続きご協力をお願いしたい。
本日はありがとうございます。

以上